

がつがくいんふくいんか だい か いつわ さいりんろん
10月学院福音化、第4課「偽りの再臨論にだまされてはならない」(Ⅱテサ2:1-12)

きょうだい わたし しゅ らいりん わたし しゅ あつ
さて兄弟たち。私たちの主イエス・キリストの来臨と、私たちが主のみもとに集め
られることに関して、あなたがたにお願いします。

れい によつて であれ、 ことばによつて であれ、 わたし たちから 出たか の ような てがみ によつて
であれ、 主の 日 が すでに 来たか の ように 言われる のを 聞いても、 すぐに 落ちつき を 失
ったり、 心 を 騒が せたり しないで ください。(Ⅱテサ2:1-2)

か しゅだい さま さいりん さいしょ か だい
4課の主題はイエス様の「再臨」についてです。パウロはすでに最初に書いた第1テサ
ロニケ4、5章でイエス様の再臨について記録しています。第2テサロニケ2章では、先
に記録した内容について、もう少し説明しているのです。今日の本文を正しく理解する
ためには、必ずテサロニケ人への第一と第二の手紙を読んでもくださり、他の翻訳本も
読んでみることをおすすめします。また、昨年11月の学園福音化のメッセージも参考に
してほしいと思います。(https://jpkodomo.com/children/202211/20221101.pdf)

Ⅱテサ2:1節に「来臨」と翻訳したギリシャ語「パルシア(παρουσία)」という単語は
「パレイミ(παρειμι)」という現在分詞形動詞から派生した単語で、英語にすると現在
進行形(ing)と同じ意味を持っています。つまり、過去から継続してきており、現在
も進行中であり、今後も継続していくという意味として、再臨や来臨よりは臨在と
現存として理解する方がより正確であると言えます。ですから、イエス・キリストの
来臨は現在、私たちの中に起きている事件であり、続く事件なのです。

いま わたし なか かみ れい
今、私たちの中に神の霊(ローマ8:14)、キリストの霊(ローマ8:9)、助け主、聖霊
(ヨハネ14:16、20:22)三位一体の神様がともにおられます。しかし今、目には見えま
せん。けれども、目に見えるように現れる時があります。そのときが、まさに再臨の
時です。重要なのは今、目には見えませんが、私がキリストの中に、キリストが私
の中におられて、この地でも神の国、天国を生きているのであり、完成した新しい天
と新しい地では目に見えるイエス様とともに永遠に生きるということです。

神^{かみ}の国^{くに}がここにある、そこにあるというのではなく、私^{わたし}たちの中^{なか}にあります（ルカ 17:20-21）。つまり、キリストがここにいる、そこにいるというだましごとに、だまされないでください（マタイ24:23-28）。再^{ふた}び来^こられるイエス・キリストは、すでに、今^{いま}、私^{わたし}たちの中^{なか}におられます。